

平成 28 年 度 学 校 評 価

兵 庫 県 立 千 種 高 等 学 校

1 学校教育目標

郷土千種を愛する心と純真素朴な気風を育み、たくましい身体と強い意志をもって自立し、命と人権を大切に社会に貢献しつつ、21世紀を創造するところ豊かで自立した人づくりをめざす。

2 重点目標

- ①千種になくってはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。
- ②特色ある3つの類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。
- ③教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。
- ④互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、福祉教育や安全教育の推進を図る。

4 総合的な学校関係者評価

- ・評価はすべて適正であると思う。高校の重点目標を基本に課題と改善に取り組んでもらいたい。
- ・卒業するときに生徒が満足している活動ができていると思う。これからも子どもたちが自信が持てる活動をお願いしたい。
- ・これからも地域の祭り等の行事にどんどん参加していただき、町の活性化に協力していただきたい。
- ・先生方に大きな負担をかけていると感じてはいるが、これからも高校の生き残りをかけて様々な活動をお願いしたい。

3 自己評価結果

※評価点は、4点満点

実践目標	実践項目	28年度 評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価
千種になくってはならない「信頼される学校」、「魅力ある学校」づくりの推進を図る。	ホームページの充実を図り、学校の様子を随時発信する。	3.0	2.8	・更新回数を増やす方策を考える。 ・部活動の成績を更新するシステムを構築する。 (公式戦の結果や活動状況を記載する。)	・千種町園小中高連携一貫教育推進事業は年ごとに成果が見えてきており、忙しい中での教職員の努力が実を結んでいると思う。  ・ボランティア活動の中で配食サービスはぜひ続けてほしい。  ・園小中高合同ふれあい文化祭での高校生の態度は、園小中の手本となり好感が持てた。
	学校行事、授業参観等を実施し、開かれた学校づくりに努め、その感想や意見を学校経営に役立てる。	3.0	2.8	・互いに授業を参観しあい、意見交換を行える環境を整える。 ・アンケートによる意見を全職員で共有し、日々改善する機運を高める。	
	生徒が地域と関わる機会を増やし、地域社会の発展を願う気持ちを高揚させる。	3.2	2.9	・生徒、子ども同士の交流を増やす行事を検討する。 ・教員が率先して地域の人と交流する機会を増やす方法について協議する。	
	千種町園小中高連携一貫教育推進事業との連携を深め、まちづくり活動を推進する中で、「行きたい高校」として本校の存在を身近に感じさせる。	3.0	2.7	○園小中高合同ふれあい文化祭では高校生として良好な態度で参加できた。 ・親しみやすい学校をPRする工夫を考えていく。 ・中高合同体育祭などを通じて、これまで以上に生徒同士の関わりを増やす。	
	行事や授業を通じて「連携型中高一貫教育校」の定着、発展を図る。	3.4	2.7	・中高合同職員会議等でお互いの意見や要望等を確認しあう機会を確保する。 ・中高連携の良さを理解し、各方面に広報する機会を拡大する。	
特色ある3つの類型と特色ある教育課程を編成し、確かな学力と人間性をそなえた生徒の育成を図るとともに、自己実現と進路目標の達成を図る。	挨拶の励行等基本的な生活習慣および品格ある自覚した行動の確立に努めさせる。	3.2	3.1	○立ち止まって挨拶ができる生徒が増えてきた。 ・生徒会の挨拶運動を増やすことで、自主的に挨拶ができる生徒を増やす。	・教員が機会あるごとに生徒に関わる努力をされており大変ではあるが、大切なことで、今後も続けていきたいと思いますと思う。  ・生徒の方からあいさつができています。  ・地域の人材をよく活用している。  ・より多くの体験学習ができた、就業体験ができれば、高校卒業してすぐに就職しても社会に対応しやすいと思う。  ・部活動では、大きな声で練習しているので、元気がもらえる。
	教科指導・総合的な学習の時間等を通して、生徒が自己の意見を論理的に明確に表現できるよう指導に努める。	2.9	2.6	・より具体的な年間計画を作成することにより、これまで以上に計画性を持って指導できる体制を構築する。 ・他校の実践を知る機会を増やすなど、教員の実践研究の機会を拡げるよう取り組む。	
	ふるさと貢献活動、就業体験、ふれあい育児等の体験的活動を多く取り入れ、生徒個々の自己有用感を高める。	3.2	3.3	○2年生の総合的な学習の時間の活動も含め、以前に比べてよくできている。 ・アクティブの授業を使って地域貢献していくことを検討する。 ・教員が機会あるごとに生徒に関わる努力をすることで、生徒の自己有用感を醸成する。	
	部活動、委員会活動への参加を積極的に推進し、充実した高校生活を支援する。	3.3	3.1	・部活動全員加入の意義への理解を深めることにより、部活動の活性化を図る。 ・部活動の数や種類を精選を検討し、部員数の確保に努め、部活動の活性化を図る。 ・部活動には保護者の理解と協力が不可欠であることから、保護者会などを定期的に開催する。	
	進路説明会やLHR・面談等を通じて、主体的な進路選択能力の育成を図る。	3.1	2.9	・より具体的な年間計画を作成することにより、主体的に進路決定に取り組む姿勢を育む。 ・生徒、保護者に多く情報を知らせることで、進路選択能力を養う。	
	体育的諸活動を通して、心身を錬磨し、将来の社会生活でたくましく生きる体力・精神力を養う。	3.1	3.1	○体育科を中心にして組織的に動いたことで、近年にないすばらしい体育大会だという評価をいただいた。 ・中高合同マラソン大会が実施しやすい日程等を検討する。	

	実践目標	実践項目	28年度 評価	昨年	課題・改善策等	自己評価、改善策の適切さに関する学校関係者評価	
12	教職員の資質と実践的指導力の向上を図る。	各教科において、授業研究など学習指導について工夫・改善を行う。	3.1	3.2	・校外への研修などにも参加する機会を確保し、多くの指導方法や指導技術に触れる。 ・気軽に授業を見学し合えるシステムを構築する。	・生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践することは、本校のもっとも大切な特色であると思う。  ・就業体験で地域の人にお世話になるが、今後も続けてほしい。  ・「千高街の駅」としてええとこセンターを利用し、集客力を上げ、地域とのふれあいの場を多くする活動をお願いしたい。  ・少人数の授業できめ細かい指導がなされていると思う。	
13		教科の枠を超えた授業の公開や研修会によって相互に研鑽する。	2.6	2.5	・気軽に授業を見学し合えるシステムを構築する。 ・公開授業週間の設定など、授業公開そのものをシステム化する。		
14		地域の人材や素材を活用した特色ある授業の取り組みを行う。	3.1	2.7	○2年生の総合的な学習の時間の活動により、就業体験も含め地域との関わりが増えている。 ・昼食（給食）導入に伴い、食育に関する取組を具体的に進める。		
15		生徒の実態や能力に応じて、個に応じたきめ細かい学習指導を実践する。	3.4	3.3	○各類型毎に全教員が工夫して指導している。 ○指導内容や指導方法を学年、類型によって少し変えることで、生徒が学びたいものを自発的に学ぶ環境作りができています。		
16		課題や宿題の指導を通して、家庭学習の習慣化を図る。	2.9	2.5	・個々の生徒の能力に合わせた週末課題等を行うことで、家庭学習を習慣化させる。		
17		基礎学力の定着や資格取得のための補習を実施する。	3.2	3.1	・部活動指導や7時間目授業、会議等で個別の指導を行う時間が取りづらいが、工夫を凝らし生徒のやる気を引き出す指導に取り組む。		
18		家庭連絡や家庭訪問を通して、保護者との情報交換や意思の疎通を図る。	3.1	3.0	○家庭訪問は高い効果があるので、方法を検討しながら今後も継続する。 ・いつでも学校に保護者に来てもらう環境づくりに努める。		
19		生徒の進路希望を達成するために、情報の収集や提供を行い、適切な進路指導を行う。	3.4	3.2	○年に5回進路ガイダンス（資料配付含む）を行い、生徒に多くの情報を提供している。		・進路ガイダンス等においては、きめ細かい計画がなされていると思う。
20		互いを認め合う望ましい人間関係を築きながら、福祉教育や安全教育の推進を図る。	マナーや規律、規範意識を高める取り組みを、ホームルーム、生徒会活動等で行う。	3.1	3.1		・全職員で生徒指導に取り組む体制を作り、定期的に情報を共有する機会を確保する。 ・生徒自ら気付くことができるよう、日々の関わりや声かけを増やす。
21	生徒一人ひとりの役割や居場所を、クラスの中や様々な教育活動の場において設定する。		3.0	2.9	・委員会活動の活性化を図る方策を生徒会と共に考える機会をつくる。 ・図書室や進路指導室等の利用方法を整理し、利用しやすい環境を整える。	・通学中のバスのマナーはとても良いと聞いている。	
22	生徒の個人面談や、日頃の声かけ指導を積極的に行う。		3.3	3.2	○朝の校門や生徒玄関等での一声指導の効果があらわれている。 ・職員間での情報の共有を定期的実施する。		
23	防災教育や安全教育を、ホームルームや学校全体で行う。		3.1	2.5	○平成28年度は宍粟市総合防災訓練があったので、多種多様な防災教育・訓練ができた。 ・現実には起きている災害に目を向け、自らが何ができるかを考えさせる機会を確保する。		
24	人権に関わる課題を知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚の育成に努める。		2.9	2.6	・具体的な年間計画を作り、研修機会を増やすことで、好ましい人権感覚を養う。		
25	教育活動全般を通じて、情報の活用に伴う情報モラルの育成に努める。		3.2	3.1	○これまでの取組が高く評価され、総務大臣賞を始めとする表彰を受けた。 ・これからも高校から地元へ、中学生・小学生へと情報モラルの育成に関することが発信できるよう努めていく。	・情報モラルに関しては、すばらしい活動であり、さらに続けてほしい。	
26	キャンパスカウンセラーと連携を密に取るなど、特別な支援を要する生徒や悩みを抱える生徒の支援体制を作る。		2.9	3.2	・キャンパスカウンセラーとの研修や意見交換の機会をさらに増やす。		